公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童デイサービスにじ					公表日	令和7年 5月 13日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点					
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・利用児童により空間を作り活動しやすい環境にしている。	活動に合わせて環境を整え安全に活動ができるスペースを設けている。今後、事業所の移転を含め検討が必要である。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・適切である ・週間表を作り利用児童を確認し職員を配置している。変更があればその都度対応している。	業務改善にて土曜日を開所し完全週休2日としたことで常に基準配置、状況によって基準以上の配置を行っている。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・ワンフロアでわかりやすい構造である。	今後も安全には十分配慮しながら支援していく。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・ほぼ畳の空間で横になったりリラックスして過ごせる。 活動の時はクッションチェア座位や抱っこでの活動。 ・毎日の清掃と片付けを行っている。必要物品を揃えて個々に合わせた空間作りをしている。	児童が帰宅した後室内の消毒を行っている。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	・目隠し等を作り、周囲からの目をそらして個室などを作って工夫 ・個別が必要な時はマット等で仕切りたり談話室を使用している。 ・リハビリなど児童が他の事に気をとらえないよう必要に応じて周囲を囲うなど工夫している。	必要に応じて個室でのリハビリ、発熱時や感染症を疑う症状が認められた場合個室での対応を行なっている。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8			左記の通り				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・保護者の評価の結果や意見等を職員で話し合い今後の支援について検討している。	保護者からの貴重なご意見に対して職員間で話し合い業務改善に繋げ、改善された内容については保護者へしっかりと周知していく。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・評価表の集計を行い職員間で共有し業務改善に繋げている。 ・定期的にミーティングを行い気になる点や問題点などを話あっている。	職員の意見をもとに現状に合わせて業務改善を行っています。引続き必要に応じて業務改善を行い働きやすい職場環境を整えます。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		・わからない ・外部評価を受ける体制を整えている。	今後は第三者による外部評価をいただき業務改善へ役立てていきたい。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・専門職以外の職員も他事業所の見学など積極的に取り組んでみてほしいと思う。 ・研修があれば受講し資質向上を図りたい。 ・研修内容によって職員に参加を募り勤務調整を行い学ぶ機会が増えている。	受講料を会社が負担するなど積極的に研修が受講できるような体制を整えている。				
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			支援プログラムを作成し令和7年4月に、当事業所のホームページへ公表している。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8			左記の通りである。今後も利用者の課題を分析し個々のニーズにあった計画書をもとに支援していく。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8			事業所内での定期的なミーティングやケアカンファレンスを実施し、各専門職が持つ知識や経験の共有を行い共通理解のもと検討会を行っている。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8			定期的なミーティングを行い計画に沿った支援を行うとともにカスタマイズされた支援プログラムを作成し支援している。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			日々、独自のソフトを用いて看護、リハ、保育における療育内容、観察事項を記録し、気になる事や達成できている内容を備考に添付しその内応を基本にアセスメントを行っている。				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			児発管が左記示すモニタリング等の内容を職員間で共有し、必要な支援は計画書の5領域で示し、児童が適切な療育が行えるよう個別のニーズや状況に応じて支援内容が設定されている。				

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8			保育士が中心となって制作活動や野外活動、イベントなどを行って、看護師がその内容を確認し児童が安全委行えるか？野外活動の場合は電源やプライベートルームの有無など安全確認を事前に行っている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8			・職員で意見を出し合い活動の内容や日々の活動を計画している。 活動プログラムにおいて季節の活動はほぼ固定されているが、同じ活動の中で行う支援、療育内容は前年の様子と活動評価を確認し成長に合わせた活動となっている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8			・児童に合った活動を支援している。 しっかりプログラムし支援を行なっている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8			・チームで支援している。 ・朝に今日の流れを職員で確認し変更があれば声かけし連携している。 各専門職で役割を分担してチーム連携で行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			支援終了後、児童個々の記録を記録際、その日担当した職員から様子や気づいた点、気になる点を共有している
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			・医療ケア児は看護記録あり。その他の児童は連絡帳でその日の支援内容を記載している。 日々の記録は各専門職で徹底して行っている。支援の様子などはシステム上で共有されているため、職員個人のIDでいつでも確認できるようになっている
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			左記の通りである。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8			しっかり行えている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8			・手話・ボード等、個々に合わせたコミュニケーションツールを使用し支援している。 児童の持っているコミュニケーション能力を最大限に引き出し、Yes・Noなどの自己決定ができるように取り組んで行く。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			・会議がある時は参加している。 担当者会議の内容によって、その内容にあった専門職が参加している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			・グループラインを作成し、デイで行った支援の様子を共有している。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8			・グループラインを作成しデイで行った支援の様子を共有している。 左記の通りであるが今後は利用者一人一人にIDを作成し個別で情報が見られるシステムを導入して行く
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7			・グループラインで情報共有を行っている。 左記の示す通り。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1		・利用児童にまだ学校卒業生はいない。 必要に応じて対応して行く
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3			・当地域にて発達センターがなく他市町村のバイザーさんからアドバイスを頂いた。 左記の示す通り。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8			タイミングが合えば地域の学童へ出向き、プール遊びや野外での遊び（縄跳びやブランコ、ドッチボールなど）を行っている。長期休暇では学童のイベントへ参加している。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			・送迎時に保護者へその日の支援内容を伝えている。 送迎時や電話、メール、連絡ノートなどで保護者へ状況を伝え共通理解に努めている。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1		今後はオンラインで参加できる研修を提供し家族が自宅から参加できるようにしたい。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			運営規定、利用者負担等については契約時に保護者と時間をかけ読み合わせをし説明を行っている。これまで説明がわかりにくいとの意見は聞かれない。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			左記の通り。今後も保護者とのコミュニケーションをしっかりと行い信頼関係の構築に努めこどもの最善の利益を最優先に密に連携を取っていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			運営規定、利用者負担等については契約時に保護者と時間をかけ読み合わせをし説明を行っている。これまで説明がわかりにくいとの意見は聞かれない。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・送迎時や会った時に他愛もない会話をしながら家族が相談を表出できるようにしている。	半年に1回の個別でのモニタリングを備えているが緊急時など必要に応じて面談、家庭訪問を行なって専門的立場から助言を行っている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		・行事を企画し交流する場を設けている。 ・保護者会の開催は少ないが、行事と共に交流を図っている。また保護者全体ラインにて共通理解を支援している。 ・家族参加のイベントを企画し他家族との交流をしながら会話できるようにしている。	父母会の発足はないが、保護者を交えた活動を年2回のペースで行なっている。令和6年度においてもちつき大会などの計画を行ったが事業所内コロナ感染症の蔓延やその他感染症などが続き活動の中止などが続いた。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・苦情箱を設置しているが今は特はない。	相談窓口は児発管の一本化しと保護者の困り事や相談についての電話も直通で繋がるようになっていく。他の職員が相談を受けた場合も一旦は児発管へ繋ぎ職員へ同じ内容の情報を共有する仕組みを作っている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		・通信は毎月発行している。HPは現在作成中、今後通信で紹介し発信していく。 ・今年からHPを立ち上げて活動の様子やデイでの情報などを発信していく。	毎月、事業所の新聞を発行しその月の活動の様子や行事予定を発信している。今年度よりホームページを立ち上げたため、より細かな情報の発信を職員で行っていく
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			個人情報には鍵のかかるキャビネットへ保管している。5年経過した書類は業者へ委託し機密文章を処理してもらい処理後「機密文書裁断証明書」を発行してもらっている。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	1	・連絡事項や保護者からの意見などあった場合返答もわかりやすく説明などしている。	・児童や家族への説明もわかりやすく時には言い方を変えて伝えるようにしている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1		今後どのように地域と関わるかを考え行事などに参加できるようにする。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		・年に何度かマニュアルを通し再確認し訓練している。	策定したマニュアルはホームページ掲載する予定。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			BCPの作成はしっかりできている。今後は訓練などから見えてくる課題に対してブラッシュアップしていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		・保護者や主治医の指示書をもとに定期的に確認するようにしている。	受け入れ時に確認している。緊急対応表への記載、保護者との読み合わせを行っている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		・活動内容でクッキングする際、保護者に再確認し計画するようにしている。	医師の指示書や保護者からの聞き取りを行いアレルギーは除去している。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			左記の通りです。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			左記の通りです。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・ヒヤリハットがあった場合、当事者が報告書を作成し職員間で共有している。	ヒヤリハットの事象が上がった場合は報告書へ異彩し職員間で共有するとともに再発防止の話し合いを行いすぐに安全対策を行っている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・職員間で勉強会を行っている。	研修参加や虐待対策委員会を中心に事業所内での勉強会を定期的に行っている。また、受け入れ時必ず全身チェック表を用いて児童の全身チェックを行っている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	1	・対象児童なし	身体拘束に該当する場合などは保護者へ事前に説明し計画書へも記載している。	